

社協

第88号

社協あさきた
ボランティアセンターだより
編集発行
社会福祉法人
広島市安佐北区社会福祉協議会
広報委員会

〒731-0221 広島市安佐北区可部3丁目19番22号
安佐北区総合福祉センター4階
TEL.082-814-0811 FAX.082-814-1895
E-mail:kita@shakyo-hiroshima-city.or.jp
<http://shakyo-hiroshima.jp/asakita/>

発行部数／52,000部
2012年(平成24年)冬

特集

安心づくりに取り組む地域

孤立社会、無縁社会など、私たち一人ひとりの日常のつながりが希薄化しています。

本号では、地区社協が中心となって進めているつながりと支えの取り組みの中から、可部、小河原・上深川、狩留家地区をご紹介します。

可部 可部地区 りんりんでつながるあんしん

～可部地区社協ボランティアバンク～

可部の町は旧(雲石)街道と国道54号線に沿い、古い町並みと新しい町並みが融合し、1980年代には作家司馬遼太郎が紀行文『街道をゆく』の取材で立ち寄ったこともあります。毎年10月には、旧街道を活用したまちめぐりが開催されています。人口12,502人、5,593世帯、65歳以上人口3,431人(高齢化率27%)で、区内では世帯数と65歳以上人口は最も多く、10年前と比較すると人口全体の増減は少ないものの高齢化率は10%も上がっています。

電話の鳴る音から名づけられた「りんりん可部」は、可部三丁目旧街道沿いの築100年の古民家を改築した『可笑屋』(障害者支援のNPO法人が運営)の一角にあります。

可部地区社協の「りんりん可部」は、可部小学校区エリアで、家の電球の交換ができない、庭に草がたくさん繁っているといった、本人だけでは対応が難しいちょっとした日常の困りごとに、地域のみなさんが協力して解決に取り組んでいます。

昨年4月から今年3月の1年間で、草取りやゴミ出しなど100件の相談がありました。その他、地域の清掃活動などにも取り組んでいます。

相談対応役の上森厚子さんは、「今年で丸3年を迎え、少しずつ地域に定着してきました。お年寄りの方からは、換気扇やお風呂の掃除、タンスの移動といった依頼も入ってきます。ちょっと手伝ってほしいと誰かの手を借りたいと思われたら、気軽にご相談ください」と話されていました。

※「ボランティアバンク」は、区内の地区社会福祉協議会が、地域の状況に応じて各々取り組んでいます。



【ボランティアバンクりんりん可部】

住所 可部3丁目34-1 可笑屋(かわらや)2階

電話 847-5509

受付 毎週火曜日、木曜日の10:00~15:00

(祝日、盆休み、年末年始を除く)



目 次～主な内容～
□ 特集 安心づくりに取り組む地域
□ 可部、小河原・上深川、狩留家地区	P1～P2
□ わたしのまちのきらりびとさん	P3
□ いきいきボランティア	P4
□ 高陽に常設子育てオープンスペース開設	P5
□ ふれあいフォトコンテスト入賞作品決定 ほか	P6

この広報紙は赤い羽根共同募金の配分金を一部充当して作成しました。

高陽 小河原・上深川地区 おむつでこんにちは

安佐北区の東南端に位置する小河原・上深川地区は、南は東区福田に接し、JR芸備線が走り、三條川が流れる山合に新旧住宅地が展開するのどかな地域です。平成24年9月末現在 人口3,749人、世帯1,591戸、高齢化率25%。

小河原・上深川地区社協では、介護が必要なお年寄りがおられる家庭を介護用品を持って訪問する取り組みをしておられます。

平成12年からのこの取り組みは、2か月に1回、民生委員または福祉委員がお宅へ訪問し、地域の出来事などの話しがつきません。また、この訪問をきっかけに、日々の立ち話しつながってもいるようです。

現在、22の家庭を訪問されています。1回あたり25,000円程度の経費は、同地域の小河原上深川愛林会からの援助(今年度は40万円)があるため、この取り組みが継続できています。

「2か月に1回の配付で、必要な介護用品すべてが貰えているわけではないが、訪問先からは『介護用品をさることながら訪問してもらうことが心強い』と喜ばれています」と重満会長。

また、「昨年度、小河原・上深川集会所1階に開設した地区社協拠点も含め、地区社協の取り組みをみなさんにとってもらい、少しづつ取り組みを広げながら、安心して心豊かに暮らせる地域を目指していきたい」と抱負も語っておられました。



狩留家地区 家事メンに歳フリー

男の料理サロン“わっはっは”

安佐北区の東部に位置する狩留家地区は、JR芸備線狩留家駅を中心に三條川を挟み東西に古い町並みが残る兼業農家の多い地域です。平成24年9月末現在人口1,349人、世帯559戸、高齢化率27%。

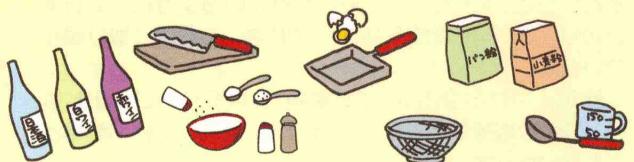
このサロンは、狩留家地区社協が毎月1回、狩留家集会所で開催しています。この10月で25回目の節目を迎え、毎回60歳代から70歳代を中心に約20名が参加されています。「わっはっは」と元気よくがサロン名の由来で、男性が定年後に地域の行事等つながりづくりにもっと参加してもらいたい、という思いから始まりました。

料理づくりは、元家庭科教師の方のサポートを受けながら行い、地域で出来た旬の野菜をメニューに加える等工夫をこらしています。出来上がった料理は、“飲ミニケーション”的つまみに早変わり。料理の出来栄えや地域の行事等、話題は盛りだくさんで話はつきません。

参加者のひとりは、「このサロンで料理もつくれるようになり、顔なじみも増え、地域とのつながりを実感しています」と、毎月第二日曜日を心待ちにしておられました。サロンの黒川代表は、「ひとりでも多くの男性に参加いただき、お互い



が顔なじみとなり、何かの時は助け合えるような関係になつていけば」と語っておられました。



◆ あんしん電話設置事業のサービスが拡充されました

病弱な高齢者や重度身体障害者が、自宅で急病や事故などの緊急時に、胸にかけたペンダント型の発信機のボタンを押すと、近隣の協力員や消防局に通報し、安全を確保するサービスです。

平成24年10月からは、電話センター方式で実施しており、利用者からの健康相談や困りごと相談等にも応じています。

詳細は、下記へお問い合わせください

**高齢者は 区健康長寿課 電話 819-0585 FAX 819-0602
重度身体障害者は 区保健福祉課 電話 819-0608 FAX 819-0602**



◆ 高齢者配食サービスが土・日・祝日等も利用できるようになりました

広島市では、食事づくりが困難な高齢者に昼食または夕食をお届けするとともに、安否確認を行う配食サービスを実施しています。平成24年10月からは、これまでの平日に加え、土・日・祝日等も配食サービスを利用できるようになりました。

詳細は、下記へお問い合わせください

区健康長寿課 電話 819-0585 FAX 819-0602



わたしのまちの きらりびと

インタビューシリーズ ②



私たちのまちで、キラッと輝くような地域活動をされている方を、紹介しています。

今回は、
可部二丁目の
梶川暢之さん
(78歳、可部夢街道まちづくりの会事務局長、NPO法人ウイングカベ副理事長、可部地区社協副会長)です。

自動車メーカーを定年退職後、様々な地域活動をされていますが、きっかけなどをお聞かせください。

サラリーマン現職時には、地域への関心がありましたがあなたまで行うゆとりはやはりなかったですね。退職後、前会長からの推薦で、町内会長を引き受けたのが63歳の時です。そして2年後に、地区社協の副会長に推されました。

社協活動を通して、いろんな方と話す機会があり、地域の現状を知ることができました。

そんななかでも、心を病んでいる方々の生活課題を知り、地域生活の支えとなる作業所をもっと応援しようと、運営に参画しました。当時は珍しいNPO法人を取得し、彼等の働く場でもあり地域の方々との交流の場でもある、可部街道筋の「コミュニティサロン可笑屋」を皆さん協力のもとに開設できました。

それから、地区社協の提唱で作成した福祉のまちづくりプランの一環として、バリアフリーマップの作成による歩道改修や、ちょっとした困りごとをお手伝い出来るボランティアバンク「りんりん可部」を「可笑屋」の2階に設けることができました。

こうしたことは、多くの方に喜んでもらえたのではないかと思っています。

可部夢街道まちづくりの会の事務局長としても活躍されていますね。

可部駅西口の整備(H15)をきっかけに、旧街道筋の町内会長やカラスの会の方などに呼びかけ、「可部夢街道まちづくりの会」を結成しました。この間、可部の街めぐりやかよこバスに因んだ催しなど様々なイベントを実施してきました。

外部の人から「可部はええね、おちついた感じで」とよく言われます。この雰囲気を後世に伝え、「住んでよし、訪ねてよい可部の町」を作っていくために、皆さんの意見をお聞きし、今年3月「可部夢街道まちなみづくりガイドライン:折り目編」を作成したところです。これから、皆さんと力を合わせて、落ち着いたまちづくりをすすめていきたいと思っています。

シリーズ 魅力ある広報紙作り

その2 話題を探そう ネコの手アドバイス



何を書いたらいいか分からぬ。広報紙を作っている人からよく聞く悩みです。掲載記事のネタが見つからないというのです。

こんな時は、身近な日々の暮らしを考えてみることです。ご近所の人と、どんな話題を話している時が楽しいか、そこにいろんなヒントがあるはずです。

お天気や季節の花々の話だったり、お孫さんの話だったり…。時には地域の行事のことだったりしませんか。

「最近、こんな花が咲いていた」「この間のどの写真を撮っておいたのだけれど…」。広報紙の担当者に、こんな情報を提供する人がいてくれたら、どれだけ心強いか分かりませんね。

新聞記者の経験から言いますと、記者ほど横着な仕事はありません。「人のゴボウで法事する」という言葉がありますが、人から聞いたことで記事をつくって売り物にするのですから、まったくの横着者です。



可部のチンチロビッツで有名な明神社やお寺の総代、老人クラブ松寿会長などもなさっておられるとか。こうした様々な地域活動に参画されてきて、どうでしたか。

やはり、沢山の方々と出会い話しが出来ることが、楽しく、私にとっては一番の収穫です。また、地域は会社と違った意味合いで、それぞれの方々の思いや意見の違いを乗り越えて、和と輪を保ちながらやっていくことの大変さとともに大切さを学んできました。

これからは、地域の皆さん様々な思いのなかでも共通の、これだけはまず大切にし育て創りあげていきたいとされていることを、取組みの基幹に据え、皆さんと力を合わせていければと考えています。もうすぐ80歳ですが、まだまだガンバります。

肩書きとは別に、地域活動の裏方さんの役割を自認されそれに徹してこられた姿勢は、まわりの方が認めておられるところです。引き続きご活躍ください。ありがとうございました。

トピックス

NPO法人みんなでスクラム生活支援センターが移転しました。

同法人では、障害者の就労と就労のための訓練の場として、これまで口田南と深川に分かれていた3作業所を、今年8月1日に統合し、落合一丁目にある4階建てビルに作業所、居宅介護事業所、法人部門を移転しました。

移転場所

安佐北区落合1-13-18

電話 841-4330



障害者作業所skipが亀山に開設

安佐南区八木で「まなび共動作業所」を運営していたNPO法人まなびが、亀山に心身障害者の作業所「skip」として、10月1日に新たに開設しました。

住所: 安佐北区亀山9-13-1 電話: 832-0825



ですが、そのための人脈づくりは日々しておかなければなりません。これを怠っていると、ろくな記事は書けません。

皆さんも、「町の情報通」を味方にすることです。

それからもう一つ。上手に情報を拝借することです。まず、新聞や最近はネットなどで話題となった情報からヒントをもらうのです。

場合によれば、配布地域が違って誰も読んでいないケースもありますから、離れた地区的広報紙に載った話題をそのまま借りることだって「あり」です。参考になる、読まれる話は共通する場合が少なくありません。

ただし無断使用は厳禁です。必ず事前に了解を得て、転載した旨を明記しましょう。可能なら補足取材して、地域独自のネタに書き換えるとベターです。

要は、たくさんの人の知恵をうまく借りることができるよう、つながりを作つておいて、いざというとき生かすことです。

広島文教女子大学 グローバルコミュニケーション学科
教授 岡馬 重充(おかば・しげみつ)

このシリーズは、広報紙づくりの工夫などを知ってもらうとともに、楽しく広報紙を読んでいただくための視点としてもお役立ていただくよう掲載しています。

いきいき ボランティア



視覚障害者の集いこすもす
代表 辻 村 登美子さん

辻村登美子さんは「視覚障害者の集いこすもす」代表の他に、視覚に障害のある方と健常の方が共に山歩きを楽しむ「歩く会友遊」の広報担当として、また「安佐北ミニの会」では傾聴ボランティアと、幅広い活動をしておられます。

辻村さんに、ご自身の事やボランティア活動について語っていただきました。

私は、50代後半に視力の低下により、長年勤めていた職場を退職し、これから不自由な生活をいかに元気に暮らしていくかを学びたくて、西区にある視覚障害者団体に参加しました。

その後、広島市視覚障害者福祉協会の役員として全国

社会参加に 困難を抱える若者を支援

NPO法人ブエンカミーノ



ブエンカミーノとは、スペイン語で「良い旅路を」を意味します。このNPO法人は、さまざまな状況によりニートや引きこもり、不登校など社会参加に困難を抱える若者の自立を目的として、平成23年3月に亀山9丁目に立ち上げられました。

現在10代から20代まで若者6名が月・水・金曜日は八千代町で農作業を行い、土・日・祝日には同町の産直市場で鉄板を使用した京都風ネギ焼やみんなで作ったジャガイモの屋台販売をされています。また、同法人では共同生活もできるようになっており、生活のリズムを取り戻すことによって、継続した活動ができるようになりました。就労につながるように取り組まれています。

最初は、農作業は経験がなく大変でしたが、時間の経過とともに慣れ、昼食のときには若者同士の会話もはずみ、暑い時期でも肥料散布や草取りなど助け合ってできるようになってきました。

参加者募集 精神保健福祉ボランティア講座

～地域つながる心のふれあい～

「ここらの病」を正しく理解し、私たちにできるボランティア活動をはじめませんか。



回	日 時	内 容
1	2月14日(木) 13:30～15:30 会場：高陽公民館	★「障害の理解とかかわり方について」 (講師：地域活動支援センター「ふれあい」施設長 原田葉子氏)
2	2月20日(水) 13:30～15:30 会場：高陽公民館	★「地域での支援について」(区内作業所 施設長) ★「利用者の立場から」(区内作業所 利用者)
3	2月27日(水) 13:30～15:30 会場：区総合福祉センター	★「安佐北ほのほのサロン」(見学・体験) 精神に障害のある方が集い、卓球やあしゃべりしながら交流する場です。
4	3月6日(水) 13:30～15:30 会場：高陽公民館	★「ボランティア活動について」(区社会福祉協議会) ★「ボランティア活動体験談」(ボランティアグループ) ★「地域の支援関係機関紹介」(区保健センター)

- 定 員 30名 ■参加費 280円(ボランティア活動保険代として)
- 申込み 2月13日(水)までに、電話・FAX・Eメールにて、下記の申込み先までご連絡ください。

申込み
お問合せ先

安佐北区社会福祉協議会
TEL 814-0811/FAX 814-1895
Eメール kita@shakyohiroshima-city.or.jp

大会などに参加し、社会での自分達の立ち位置や全国的な取り組み状況などたくさんのこと学びました。

安佐北区社会福祉協議会との関わりは、9年前に「ボランティアステップアップ講座」の講師を受けたことがきっかけです。安佐北区でも視覚障害者が気軽に集える場所があったらしいね、と相談を持ちかけ「視覚障害者の集いこすもす」が立ち上がり、今年で8年目になります。「視覚障害者の集いこすもす」では、今年度新たな取り組みとして、視覚障害者が地域と共に暮らしていることや、町で視覚障害者に出会った時に気軽に声を掛けてもらえるよう、小学校で児童や保護者とふれあう活動を始めました。

また、目の不自由な私は、見えなくても聞くことはできるかなどの思いから、傾聴ボランティア活動に参加しています。活動中は、この人としっかり向き合おうという気持ちで関わっています。そのため聞き上手になるための講座に参加したりしています。

障害のある人でも、したい気持ちがあればボランティアは出来ます。一歩外に出かければ、たくさんのやさしさに出会い、感謝の気持ちで一日が終わります。泣いても笑っても同じ人生。目は不自由だけど、決して不幸ではありません。



11.3
やさしさの
まちづくり屋台村
でのひとコマ

ある若者は、「自分が外に出られるようになったことや、農作業の経験などで、ここにくるとやろうという気持ちが自然と出てきます」と話され、今では収穫の喜びを体験し、達成感を味わうことで充実した取り組みになっています。

同法人の吉川代表は、「自宅にこもりがちな状態からの脱却を目指すために、いろいろな取り組みを通して、人の関わりや目標をもってもらえる手助けをこれからも続けていきたい」と、若者の眼差しに希望を感じられていました。

所在地: 安佐北区亀山9-1-4 電話: 578-6248
ホームページ <http://buencamino.moo.jp>

赤い羽根 共同募金

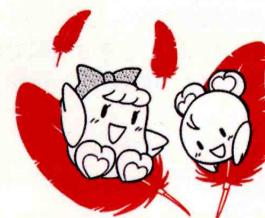
10月1日▶12月31日

みなさまの一層の
ご賛同お願いします。

安佐北区目標額

13,639,000円

(広島市内募金目標額 1億円)



今年も10月1日から全国統一スローガン「じぶんの町を良くするしぐみ」として共同募金運動が始まりました。

赤い羽根共同募金は、主に地域福祉活動(誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり)の取り組みに活用されています。

高陽に常設子育てオープンスペース開設

10月1日、子育て支援の常設型オープンスペース「すずらん広場高陽」が高陽ニュータウンに開設しました。

“のんびり” “ゆったり” “わきあいあい”をモットーに、子育て中の親子が気軽に集い、交流を図る場を目指しています。

【開設日】月曜日～金曜日 10:00～15:00 (祝日除く)

【開催場所】高陽タウンセンタービル地下1階(亀崎一丁目2-4) **【利用料】**1家族につき1日100円

【お申込み・お問い合わせ先】広島文教女子大学 電話 516-5353 FAX 516-5355



安佐北区内の子育てオープンスペース

☆常設オープンスペース☆ 「スマイルあさきた」

子育て中の親子が気軽に参加し、遊んだりおしゃべりしたり、情報交換ができる場が公民館、児童館等で開催されています。

	グループ名	活動日・時間	場所
高 陽	かこがわっこ	毎月第2・4火曜 10:00～11:30	狩小川児童館
	うさぎランド	毎月第2木曜 10:00～11:30	亀崎学区集会所2F
	ひよこルーム	毎月第2水曜 10:00～11:30	真亀児童館
	子育て広場 「もんちっち」	毎月第3木曜 10:00～11:40	倉掛児童館
	子育て広場 「わんわん」	毎月第4月曜 10:00～11:30	落合児童館
	ありんこキッズ	毎月第3火曜 10:00～11:30	口田南集会所
	オープンスペース 「空そら」	毎週金曜 10:15～11:30	口田公民館
	子育て広場「みるく」	毎月第1金曜 10:00～11:30	三入公民館

【開設日】月曜日～金曜日 10:00～15:00

(祝日・8月6日・お盆・年末年始はお休み)

【開催場所】安佐北区総合福祉センター4階(可部三丁目19-22)

【お問い合わせ先】安佐北区地域子育てセンター 電話 819-0617

可 部	子育てサロン 「クローバー」	毎月第4水曜 10:00～11:30	可部児童館
	キャンディ2クラブ	毎月第3火曜 10:30～12:00	可部南児童館
	子育てサロン かべみなみ	毎月第1金曜 10:00～11:30	可部福祉センター
	子育てサロン ブーさん	毎週火曜 10:00～12:00	亀山児童館
	子育てサロン 「どーなっつ」	毎週金曜 10:00～12:00	勝木台交流会館
	オープンスペース 「ぶんご広場」	毎月土曜(不定期) 10:00～15:00	広島文教女子大学 体育館
	鈴張子育てサロン	奇数月第2金曜 10:30～12:00	鈴張児童館
安 佐	オープンスペース 「どんぐりくらぶ」	毎月第1・3金曜 10:30～12:00	安佐公民館
	たねまき	毎月第1月曜 10:00～12:30	日浦公民館

お酒を上手に飲むための ～健康ひとくちまめ情報～

お酒は適量であれば「百薬の長」となりますが、飲みすぎると「百厄の長」となり肝臓や胃腸などに負担を掛けことになります。例えば、お酒を毎日3合以上飲む、脂っこいつまみをよく食べる、お酒を飲むときにタバコを吸うなどに心当たりの方は要注意！

そのためにも、自分の適量を知り上手に飲む方法を知りましょう。

～お酒を楽しく飲むポイント～

その1 ゆったりした気分で楽しく飲む

(強いお酒は薄める。お酒と水を交互に飲む)

その2 週2日は休肝日を設ける

その3 夜12時以降はお酒を飲まない
(日本酒1合の分解は約3時間かかる)

その4 タバコは禁煙を心掛けましょう
(ニコチンが溶けやすくなり、
タバコの害が倍増する)

その5 つまみを食べながら飲む
(アルコールによる胃の負担を減らします。

まず野菜、あとからタンパク質を取り、脂っこいものは控えましょう)



◇未成年、妊娠・授乳中、服薬中の場合は心身に悪影響を与えるため、お酒を飲むことはできません。これから年末にかけてお酒を飲む機会が多くなると思いますが、お酒の席では、「無理にすすめない・断るときは笑顔でハッキリと断る・飲酒運転はしない」ことも大切です。

<お問い合わせ>

安佐北保健センター(健康長寿課) TEL 819-0586

— ことば「福祉」① —

日頃、福祉という言葉をよく聞きまた目にしますが、いまいち、福祉という言葉の意味するものが不明確だと思っておられませんか。また、使われる時や場所や対象によって、言葉に込められたニュアンスが違っていいるようで、解らなさに拍車がかかってきます。

さて、まず結論から。福祉という言葉は、幸せを意味します。一昨年、本会が開催した第31回安佐北区社会福祉大会の講演で満嶋明先生は、「この漢字の語源は、どちらの漢字の偏(へん)のネ(示)は、神様のこと。福の旁(つくり)は酒がたっぷり入る徳利を、祉のそれは足跡・止まるを意味しています。こうしたことから、『神様のもとにお酒を捧げることができ、幸せだなあ』という、いにしえびとの思いに由来しているのです」と説明されました。

次号では、現在、福祉という言葉がどのように使われているのか、みていくことにしましょう。

地域の特産品コーナー

のびるつながりは お餅のよう

白木町井原地域で週3回、下井原農組合員や地域の方によつて朝市をされています。この朝市は、平成6年から地元で取れた野菜などを特産物として販売。今では、野菜だけではなく地元の山から付けた「神ノ倉米」は、特別栽培米として「安心！広島ブランド」の認定も受けています。また、当日の朝に作る杵つき餅やおこわ、赤飯などは人気商品です。

組合員以外の地域の人も加わって、共同販売をされています。地域の障害者支援のNPO法人の行事やあさきた元氣フェス夕等にも出店されます。



バザール神ノ倉

所在地:

安佐北区白木町井原5478

営業時間:

水・土・日曜の7:30～12:00

主な特産品

杵つき餅(300円／3個)、

赤飯(300円・土曜のみ)、

神ノ倉米、野菜20種類以上など

第27回 ふれあいフォトコンテスト

(2012年度・平成24年)

入賞作品
決 定

【優秀賞】2作品

西田征義さん
「鮎つかまえた」



「人と人のつながり・心あたたまる瞬間！」感動写真の入賞作品(優秀賞2作品・佳作7作品)が決まりました。

入賞作品は、12月1日(土)開催の安佐北区社会福祉大会において展示します。ぜひ福祉大会へお越しいただき、入賞作品をごらんください。

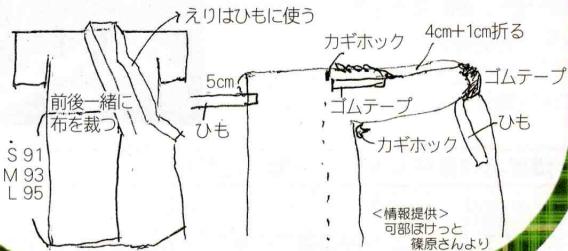
来年もコンテストを開催する予定です。多数のご応募をお待ちしております。

＜福祉サービス利用援助事業＞
認知症や障害のために、
地域での生活がしづらく
なった方が、安心して生活
できるよう支援します。

介護の味方シリーズ

4

着ていない着物で巻きスカートを作つてみませんか。
巻きスカート以外にもひざ掛けにも使えますよ！
①最初に着物の衿の部分はスカートの紐として使うので取り外し、好みの長さに裁断します。
②次に丈は好みのサイズで布を裁ちます。目安のサイズとしては、Sサイズ91cm、Mサイズ93cm、Lサイズ95cmです。
③そして、裁ち目から5cmを折り返し1cmの中に織り込みます。
後ろ巾には好みの長さのゴムを入れます。
④右脇の内側と左端の表側にカギホックを取りつけます。
⑤最後に左の表側と右端の裏側に紐を取りつければ完成です。



お知らせ

第33回 安佐北区社会福祉大会

日 時 平成24年12月1日(土)13:00～16:00(受付12:00～)
会 場 安佐北区総合福祉センター 6階大会議室
大 会 式 典 13:00～13:45
シンボルム 14:00～16:00 テーマ「地域で育む 子どもたちの生きる力」
催 事 障がい者施設・作業所/バザーコーナーは11:00～16:00に開設

第2回 あさきた元気フェスタ～来てみんさい！魅力いっぱい安佐北区～

地域特産品の販売、まちづくり活動の展示、子どもたちの元気でかわいいステージ発表など、いろんな魅力がここに集結！
さあ、安佐北区の元気を発信しましょう！

日 時 平成24年12月9日(日)9:45～15:00
会 場 安佐北区民文化センター
※安全・安心なまちづくり安佐北区民大会を同時開催(10:05～11:35 同会場にて)

かけはし

ご利用ください。

例えば、こんなことでお困りの方ご相談ください。

- ・役所から手紙がきたが、内容が良くわからん。
- ・通帳が、よく分からんようになる。
- ・お金の支払いが、よう分からんようになる。

こんなことでお困りの方と契約を結び、今お住まいのところで安心して生活が出来るよう専門の職員が支援のため訪問し、アドバイスします。

また、このほか成年後見や、権利擁護に関する相談もお受けします。安佐北区社会福祉協議会までお問い合わせください。

入学金等の準備はできていますか？

今年も残すところ一ヶ月となり、高校や大学等の中には推薦入試が始まっています。推薦合格後10日以内に入学金や前期授業料等を納めないといけない学校もあります。

学校や進学志望校へ費用としてどの位必要なのかを事前に問い合わせ、ご家族でよく話し合い準備をされる事をお勧めします。

入学等の費用については、給付や貸付制度等の支援があります。詳しくは在学されている学校や教育委員会、または安佐北区社会福祉協議会までお問合せ下さい。

ほのぼの川柳

起きたけど 寝るまでとくに 用なし
介護して ふたたび芽生える 夫婦愛

出典 シルバー川柳
株式会社ホノラ社発行

次号から、皆さまから寄せられたほっこり笑顔になるような「ほのぼの川柳」を掲載します。ぜひ区協事務局までご投稿ください。次号(89号)は3月下旬発行予定です。

お待ちしております。
(編集者)

東日本大震災義援金

東日本大震災義援金の受付は、平成25年3月31日まで延長しています。

愛の灯

香典返し寄附
（一般寄附）
井原・戸石集落営農組合様
匿名希望1名
玄米15kg
西原 哲也 様
大迫 英俊 様

★編集後記★